

平成27年度 田原市議会運営委員会行政視察報告書

日 程 平成27年10月13日(火) 10時45分～12時05分

視察先 「議会ICT化の取り組みについて」(三重県鳥羽市)

会 場 鳥羽市役所 委員会室

対応者 鳥羽市議会 議長 浜口 一利 氏

鳥羽市議会 副議長 井村 行夫 氏

議会事務局 局長 森本 孝夫 氏

議会事務局 次長 上村 純 氏

議会事務局 議事係長 北村 純一 氏

参加者 委員 長 赤尾 昌昭 副委員長 長神 隆士

委 員 杉浦 文平 委 員 彦坂 久伸 委 員 荒木 茂

〃 平松 昭徳 〃 大竹 正章

事務局 長 渡邊 澄子 議事課長 小久保英夫 事務局 鈴木 克広

事務局 牧野 直弘

(1) 概 要

三重県の東端部に位置する鳥羽市は、4つの有人離島をはじめとする離島部と、半島部から構成される、人口約2万人のまちである。

鳥羽市議会は、様々な議会改革に取り組むなか、議会ICT化を積極的に推進し、全議員が自主的にタブレット端末を保有するに至っている。

取り組みの特徴として、無料のSNSやアプリケーション等を積極的に活用することにより、多額の経費を掛けずにICT化を推進していること、また、効率的な議会運営を目的とした議会ICT化であり、ペーパーレス化が目的ではないと明確に位置付けていること、議会活動において全議員がタブレット端末を使わざるを得ない仕組みを構築していること、などが挙げられる。

(2) 参考になった点

- 議会活動において、タブレット端末を使わざるを得ない仕組みを作り上げ、議員の気持ちに変化をもたらしたこと。また、無理せずできることから始めていること。
- 通信費の一部を政務活動費で負担することで、議員個人の負担を軽減していること。また、それにより議員がタブレット端末を持ちやすい環境を整えていること。
- ペーパーレス化をICT化推進の目的とせず、資料の事前送付や説明の簡略化など、スムーズな議会運営を目的に推進していること。
- 本会議・委員会・全員協議会において、自席へのタブレット端末の持ち込みが可能であること。
- クラウド上で管理する資料については、一般に公開可能なものに限定するなど、セキュリティ面で特段の配慮が必要ないような対応を行っていること。
- 議会と行政は別枠のものとしてICT化を推進していること。
- フリーソフトを積極的に活用するなど、多額の経費を掛けることなく、手作りのICT化を進めていること。

- 時事通信社が提供する i J AMP を活用し、議会においても最新の行政情報を入手可能にしていること。
- 一般質問において、電子パネルを活用した補完説明を効果的に行っていること。また、多くの議員が当たり前のように電子パネルを使用していること。動画配信時にパネル窓を挿入して、視聴者にも分かりやすい情報提供を行っていること。

(3) 所 感

- 本市議会で I C T 化を推進するにあたっては、鳥羽市議会同様にタブレット端末を議員個人が負担し、通信費の半分を政務活動費で賄う方式がよいと思われる。
- 今後、I C T 化を推進していくなかで、取り残されてしまう議員が出ないように、段階を踏みながら進めていくことが重要である。
- 議員個々の情報操作能力に幅があるため、デジタルデータの取り扱いに関するガイドライン等を整備しないと、運用リスクが生じる可能性がある。
- グループウェアなどのアプリケーションの導入にあたっては、連絡網・資料共有・予定共有等を一括で行えるような、事務局の事務負担軽減に繋がるものを導入していくべきである。
- クラウドシステムのセキュリティ脆弱性への対策だけでなく、タブレット端末自体のウィルス対策を統一して導入するべき。
- タブレット端末の充足によって、議員・市職員用のモニター設置は不要であると思われるが、傍聴者用に傍聴席から視聴可能なモニターは必要である。
- 鳥羽市議会の方針と同様に、「目的と手段を混同しない」ことを基本とし、議論を重ねて導入を進めていくべきである。
- 本市議会も無料グループウェアを活用した取り組みをすでに行っており、抵抗感なくタブレット端末の導入が図れるものと思う。あまり時間をかけず、機運の盛り上がりを考慮して一気呵成に導入すべきであると思う。



説明の様子(委員会室)



説明の様子(議場)



電子パネル(議場)



議員発言席(議場)